



地域医療連携ニュース

発行：兵庫県立加古川医療センター 〒675-8555 加古川市神野町神野 203 番地 <http://www.kenkako.jp/>
TEL：079-497-7000(代表) TEL：079-497-7011(地域医療連携部直通) FAX：079-438-3756(地域医療連携部直通)

も	●看護部……………	1	●整形外科……………	5
く	●外科・消化器外科……………	2	●脊髄外科センター・骨粗鬆症センター……………	6
じ	●糖尿病・内分泌内科……………	3	●放射線部……………	7
	●乳腺外科……………	4	●外来診療表……………	8



看護部



県立加古川医療センター看護部を紹介させていただきます。

当院は地域の中核病院として、東播磨圏域における3次救急医療、生活習慣病医療、緩和ケア医療、感染症医療、神経難病医療について貢献しており、地域に信頼される質の高い看護を目指しています。令和2年からは兵庫県『新型コロナウイルス感染症拠点病院』として、中等症から重症の新型コロナウイルス患者さんの看護に励んでいます。

令和4年度 看護部重点目標

- 1 地域から求められる役割を果たすため、断らない医療に貢献します
- 2 安全で信頼される質の高い看護を提供します
- 3 看護の質を保证するための創造的視点で業務改善に取り組めます
- 4 地域包括ケアシステムの中で、急性期病院として切れ目のない継続看護を実践します

■ 看護単位

3階東・南病棟（感染症内科、総合内科、皮膚科、救急科）病床数：3階東：37床、3階南：8床

3階西病棟・緩和ケア病棟（緩和ケア内科）病床数：25床

4階東病棟（泌尿器科、形成外科、整形外科）病床数：41床

4階西病棟（整形外科）病床数：42床

5階東病棟（整形外科、眼科、リウマチ外科、放射線科）病床数：42床

5階西病棟（外科、乳腺外科、脳神経外科）病床数：41床

6階東病棟（消化器内科、脳神経内科、放射線科、腎臓内科）病床数：42床

6階西病棟（糖尿病・内分泌内科、リウマチ科、循環器内科）病床数：37床

救命救急センターICU 病床数：8床

救命救急センターGHCU・HCU・救命病棟 病床数：18床

重症コロナ病棟 病床数：12床

救命救急センター初療室・手術室・外来・血液浄化センター

ホームページも
見てくださいわ♡



この15部署以外にも、地域医療連携室・教育担当看護師長・専門看護師（2分野3名）や認定看護師（8分野9名）がはりきって活動しています。ご用の際はいつでもお気軽にご連絡ください！

外科・消化器外科

外科・消化器外科部長 **高瀬 至郎**

当科では、食道から肛門までの消化管、肝・胆・膵・脾など実質臓器も含めた消化器外科を中心に診療しています。消化器外科領域以外では甲状腺、副甲状腺疾患、鼠径ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニアなども対象にしています。消化器癌に関しては手術前後の補助化学療法を始め、進行再発癌の化学療法の多くも当科が担当しています。外傷外科分野でも、救急部との連携を図りながら、積極的に取り組んでいます。

治療方針につきましては、まず、生命予後を最も重視し、各疾患の治療ガイドラインに則った標準治療を基本としています。その上で、低侵襲な手術法や機能温存を考えた手術法など、新しい治療法も吟味の上、積極的に取り入れています。

手術法として、腹腔鏡や胸腔鏡を用いた鏡視下手術を積極的に採用しており、進行胃癌や大腸癌の困難症例を除けば、消化管と胆嚢手術やヘルニア手術はほぼ全例、鏡視下手術を施行しています。現在では、肝臓や膵臓など実質臓器に対しても症例を選んで鏡視下手術を取り入れています。また、消化器内科とも協力し、腹腔鏡・内視鏡合同手術(LECS)も導入しています。

スタッフは7人で、5人の消化器外科医に、救急科専門医を加えた構成となっています。メンバーは、消化器外科医として十分な経験と各々に専門領域、得意分野を有しており、チームワークも大変良好です。また消化器内科をはじめ、他科との連携も良好であり、トータルに患者様に良好なサービスを提供できるように心がけております。地域の中核病院として皆様のご期待に添えるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。



2021年手術症例数

	全体	鏡視下
甲状腺・副甲状腺	5	0
食道	2	2
胃・十二指腸	36	21
小腸	6	1
大腸(直腸)	19	18
大腸(結腸)	34	28
虫垂	14	13
肝臓	7	6
胆道(良性)	48	48
胆道(悪性)	4	1
膵・脾・十二指腸乳頭	6	0
腹部その他	33	13
肛門	5	0
ヘルニア	62	49
体表・その他	4	0
ポート手術室	11	0
合計	296	200

スタッフ紹介

高瀬 至郎 (検査・放射線部長兼外科・消化器外科部長 H元年卒)

日本外科学会専門医
日本がん治療認定医
近畿外科学会評議員
緩和ケア研修会修了
臨床研修協議会プログラム責任者養成講習会修了

日本消化器外科学会認定医
消化器がん外科治療認定医
臨床研修指導医
医学博士

小林 巖 (外科・消化器外科部長 H10年卒)

日本外科学会専門医
医学博士

門馬 浩行 (外科・消化器外科部長 H15年卒)

日本外科学会専門医
日本がん治療認定医
日本膵臓学会認定指導医
緩和ケア研修会修了
医学博士

日本消化器外科学会専門医・指導医
消化器がん外科治療認定医
検診マンモグラフィ読影医
臨床研修指導医
NST 医師

川嶋 太郎 (救急科医長兼外科・消化器外科医長 H20年卒)

日本外科学会専門医
日本救急医学会専門医
消化器がん外科治療認定医
緩和ケア研修会修了

日本消化器外科学会専門医
日本腹部救急医学会認定医
臨床研修指導医
NST 医師

多田 羅 敬 (外科・消化器外科医長 H21年卒)

日本外科学会専門医
緩和ケア研修会修了
NST 医師

消化器がん外科治療認定医
医学博士

宮永 洋人 (救急科医長兼外科・消化器外科医長 H23年卒)

日本救急医学会専門医
日本外科学会専門医

谷川 航平 (外科・消化器外科医長 H25年卒)

日本外科学会専門医
医学博士

緩和ケア研修会修了

<非常勤医師>

堀 宏成 (外科医長 H10年卒)

日本外科学会専門医・指導医
日本消化器病学会専門医
日本消化管学会胃腸科専門医・指導医

日本消化器外科学会専門医・指導医
消化器がん外科治療認定医
緩和ケア研修会修了

地域医療機関の先生方へ

日頃より多くの患者様をご紹介いただき、ありがとうございます。

コロナ禍において、状況により救急診療の制限、一般病床の減床、ICUのコロナ占有など、診療制限を受けるケースもありましたが、現在は、コロナ前と比較して診療機能に支障なく、スタッフを揃えています。月曜から金曜まで外来を開いておりますので、なんなりとご相談下さい。今後とも円滑な運営を心掛けてまいりますので、ご紹介よろしくお願いいたします。

糖尿病・内分泌内科

生活習慣病センター長 兼 糖尿病・内分泌内科部長 飯田啓二

■ 当科の特徴

糖尿病・内分泌内科は、文字どおり「糖尿病内科」と「内分泌内科」両分野において専門医療を提供しております。独自の糖尿病教育プログラム、外科系他科の周術期血糖管理、高度な内分泌診療、若手医師の教育・育成が当科の特徴です。

■ 糖尿病診療について

糖尿病診療においてはチーム医療を実践しており、治療と教育を兼ねた入院「教育プログラム」を実施しています。特徴としては、生活習慣改善に重点を置き、通常の講義形式の授業だけでなく、糖尿病食バイキングやカンパセーションマップを用いた教室など患者さん参加型の形式を取り入れています。また専門医師による個別運動指導を実施している点も大きな特徴です。腎臓内科とも密接にコラボし、腎症の症例も幅広く対応しています。当院は新型コロナウイルス感染症症例も多く受け入れています。治療薬デキサメサゾンによる血糖上昇にも独自のプロトコルを作成して対応しています。



■ 内分泌診療について

内分泌診療においては、当院は県内で数少ない日本内分泌学会認定教育施設、日本甲状腺学会専門医施設です。扱う疾患は多岐にわたり、下垂体、甲状腺、副甲状腺、膵内分泌、副腎、性腺疾患と全身をカバーします。兵庫県西部地域の広い地域からご紹介いただいております。

■ 若手医師の教育について

若手医師の教育にも力を入れており、当院の専攻医、初期研修医だけではなく他の県立病院からも熱意ある研修医が一定期間当科を選んで研修に来てくれています。若手医師たちが当科の診療の中心になり、活気にあふれた環境です。

学会認定教育施設

- 日本内科学会認定制度教育病院
- 日本糖尿病学会認定教育施設
- 日本内分泌学会認定教育施設
- 日本甲状腺学会認定専門医施設
- 日本肥満学会認定肥満症専門病院

■ 糖尿病・内分泌内科担当医

飯田 啓二	生活習慣病センター長 兼 糖尿病・内分泌内科部長	平成 5 年卒
戎谷 亜希子 (非常勤)	兵庫県職員健康管理センター所長	平成 9 年卒
中村 幸子	総合内科兼糖尿病・内分泌内科部長	平成 14 年卒
藤田 泰功	総合内科兼糖尿病・内分泌内科医長	平成 23 年卒
石田 育大	総合内科兼糖尿病・内分泌内科医長	平成 24 年卒
石井 佳子	糖尿病・内分泌内科医長	平成 24 年卒
合田 菜穂	糖尿病・内分泌内科医長	平成 24 年卒
稲山 由布子	糖尿病・内分泌内科医長	平成 27 年卒
樫谷 悠也	糖尿病・内分泌内科医員	平成 28 年卒
後藤美菜子	糖尿病・内分泌内科医長	平成 28 年卒
斎藤修一郎	糖尿病・内分泌内科医長	平成 29 年卒
藤井研己	専攻医	平成 30 年卒
西山信晴	専攻医	平成 30 年卒
津本一秀	専攻医	平成 31 年卒
大西佑弥	専攻医	令和 2 年卒
富安孝雄	専攻医	令和 2 年卒



乳腺外科



化学療法担当部長 兼 乳腺外科部長 **石川 泰**

近年、日本人女性の乳がん発症率は11人に一人と急速に増えていますが、乳がんで亡くなる方は8人に一人と減りつつあります。これは検診の普及と治療法の進歩によります。乳がんで亡くならないためには定期的な検診、乳房に異常を感じたら乳腺専門の施設を受診し、乳がんと診断されたら標準とされる治療を受けることが大切です。

現在、加古川地域では年間300人近い女性が乳がんを発症され、当院では年間170件ほど乳がんの手術を行っています。2020年から2022年までは新型コロナウイルス感染症診療のため診療制限を行いました。乳腺外科の診療実績は例年と変わることはありませんでした。乳癌の診療は短期間の手術入院を除いては通常外来で行うことが多く、診療制限の影響を受けることなく診療が続けられています。また地域医療連携パスを活用し当院の治療が終了すれば逆紹介を行っており、外来診療も混みあうことなくスムーズな運用になっています。

診療実績	2019年度	2020年度	2021年度
乳腺良性疾患手術数	19	21	26
乳房温存手術（乳癌）	61	78	75
乳房切除手術（乳癌）	77	91	90
その他手術（乳房再建等）	6	3	10
外来化学療法件数	857	935	922
乳がん地域連携パス利用症例数	18	59	69

当院では感染症に十分気を付けて診療を行っています。乳がんは治る可能性が高くなったといえ、受診控えをしていると恩恵にあずかれません。乳房に不安があれば早めの受診をお願いします。

当科の特色

当科は10年以上乳腺疾患を専門とした診療を続けてきた日本乳癌学会の認定施設です。診療面では診断・治療・術後フォロー、再発症例の治療・緩和ケアまで一貫して行う体制をとっています。中規模総合病院の利点を生かし様々な診療科の協力を得て患者さんを支え、緩和病棟が併設されており最期まで診療にあたる気概を持って患者さんに接しています。

本年度よりスタッフが3人に増え、より充実した診療を行っています。医師のほかにも乳腺診療に必要な経験と資格を取得したスタッフが充実しています（がん化学療法認定看護師、リンパ浮腫療法士、緩和ケア認定看護師、がん薬物療法認定薬剤師）。

本年度トモシンセシスを併用したマンモグラフィ機器を導入し腫瘍の検出率の向上に努めています。

診療内容

- 乳がんの診断・治療（手術・薬物療法・乳房再建）・術後フォロー
- 乳がんの検診（加古川市個別検診実施機関、乳癌検診で要精査とされた方の検査）
- 乳がん再発後の治療・緩和ケア
- セカンドオピニオン外来・遺伝カウンセリング
- 乳腺の良性疾患（良性腫瘍・乳腺炎・乳輪下膿瘍など）の治療

乳がんの治療においては、日本乳癌学会の診療ガイドラインに基づいた標準治療を基盤として、個々の患者さんの課題に寄り添う『がんチーム医療』に重点をおいています。



スタッフ紹介

石川 泰（いしかわ・とおる）

化学療法担当部長兼乳腺外科部長
乳癌学会専門医・指導医
がん治療認定医
超音波医学会専門医
検診マンモグラフィ読影A評価

小林 貴代（こばやし・たかよ）

乳腺外科部長 外科学会専門医
乳癌学会専門医
検診マンモグラフィ読影A評価

加藤 彩（かとう・あや）

乳腺外科医員
検診マンモグラフィ読影A評価





整形外科



整形外科部長 高山博行

当科は旧県立加古川病院時代から、長年にわたり東播磨地域における整形外科診療の中核として、地域の皆様の信任を頂いてまいりました。2009年の新設移転後は救命救急センターが併設されて重度外傷、3次救急にも対応可能となり、最新医療設備も整備されて紹介患者数、手術件数も県内屈指のレベルに増えました。

救急外傷

骨盤骨折や多発外傷、脊椎脊髄損傷などの重症症例の緊急対応も可能です。重度外傷では合併臓器損傷により全身状態が不良な場合も多く、救急科を始め多くの科と連携、協力して治療にあたっています。脊椎損傷に対する緊急手術も多く行っていますが、頸椎のスクリュー挿入などの危険度、難易度の高い手術に際しては、術中CT撮影も可能な最新のX線透視装置や最新のナビゲーションシステムを導入しています。

関節疾患・リウマチ膠原病センター

関節疾患も症例ごとに適応を決めて、多くの手術治療（関節鏡下手術、関節周囲骨切り術、人工関節など）を行なっております。また2016年度に「リウマチ膠原病センター」が開設され、関節リウマチによる関節の変形、痛み、機能障害に対する手術も増加しています。

脊椎外科センター

2018年度より「脊椎外科センター」が開設され、さらに多くの紹介症例、緊急症例の治療を行っております。手術は最新の機器、手技を導入し、できるだけ低侵襲を目指しています。

骨粗鬆症センター

社会の高齢化により骨粗鬆症患者が急増しており、骨粗鬆症の治療にも力を入れています。骨粗鬆症治療は生涯にわたる継続が必須であり、2016年度に「東播磨骨粗鬆症地域連携ネットワーク会議」を立ち上げ、近隣の医療機関と連携しての地域全体での治療を目指しています。2019年度には「骨粗鬆症センター」も開設し、生活指導、受診案内も含めた包括的な治療（リエゾンサービス）の拡充を目指しております。

Covid-19（新型コロナウイルス）感染は未だ完全終息しておらず、今後も感染のフェーズに応じて、通常診療が制限されることもあるかもしれませんが、できるだけ地域医療のニーズには応えてまいります。今後ともよろしく願い申し上げます。



脊椎外科センター



脊椎外科センター長 **高山 博行**

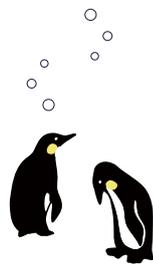


整形外科の脊椎疾患治療は、2018年4月からは「脊椎外科センター」として運営され、紹介初診は月水曜日の整形外科初診1で受け付けております。慢性疾患は保存的治療が無効の場合に手術を考慮いたしますが、急性期病院ですので入院での保存的治療は最小限とさせていただいております。手術は最新の機器、手技を導入し、できるだけ低侵襲を目指しています。腰椎椎間板ヘルニアに対しては、基本的には低侵襲の内視鏡手術を行っておりますが、2018年に初めて保険認可されたコンドリアーゼ椎間板内酵素注入療法も行っています。これは、椎間板内に直接注入することにより、椎間板内の保水能を低下させ椎間板ヘルニアを縮小させる新薬であり、ヘルニアのタイプによっては手術とほぼ同等の成績が報告されています。当院は椎間板内酵素注入療法の認定施設であり、適応を充分考慮しながら実施しています。

救急搬送される脊椎脊髄損傷は、合併臓器損傷がある場合も多く、救急科や他科と連携して治療しています。頸椎損傷では、頸椎椎弓根スクリュー挿入など難易度、危険度の高い緊急手術が必要なケースも多く、術中CT撮影も可能な最新のX線透視装置や、最新のナビゲーションシステムを導入しています。これらの手術支援機器は即時性と正確性の利点があり、より早く、より安全確実な手術が可能となります。

高齢人口の増加とともに、骨粗鬆症による脊椎圧迫骨折も増加しており、充分な保存的治療でも除痛が得られない場合にはBaloon Kyphoplasty (BKP)の適応となります。これは、圧迫骨折した椎体をバルンで膨らませて椎体高を整復し、セメントを注入して固める低侵襲手術です。当院はBKPの認定施設にもなっており多くの手術実績があります。

また高齢化により、著しい脊柱変形や、多椎間の脊柱管狭窄症などで広範囲の脊椎矯正固定術を要する症例も増えています。こういう広範囲の矯正固定術は、従来の後方アプローチでは侵襲が非常に大きく、近年、低侵襲の経皮的スクリューや前側方進入椎体間固定(LLIF)などが行われるようになってきました。当センターでも術前に血管造影CTなどで椎体周囲の脈管の位置を十分に精査した上で、神経モニタリングも併用しながらLLIFを行っています。



骨粗鬆症センター

骨粗鬆症センター長 **青木 謙二**

センターは、2019年に開設後、骨粗鬆症外来、生活習慣病センター、東播磨骨粗鬆症地域連携ネットワーク会議と連携し、骨粗鬆症を背景とした脊椎や大腿骨近位部の脆弱性骨折に対しての治療後に高率に発生する二次骨折、骨折の連鎖による機能障害を防ぐため、骨折リエゾンサービス (FLS) をおこなっております。

脆弱性骨折とは骨強度の低下により、わずかな外力で生じる骨折で、骨折治療後も二次骨折をおこしやすいため、骨折の連鎖により生活機能を悪化させ、患者さん本人だけでなく、ご家族や地域社会、そして医療経済にも影響を及ぼすものとなります。

これまでは脆弱性骨折患者の入院時の骨粗鬆症治療率は非常に低く、入院中に骨粗鬆症治療を開始しても、退院後はどこかで治療が途絶えてしまう状態でした。

骨折リエゾンサービスとは、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士ら多職種の連携により二次骨折を予防するもので、当院では「再骨折予防サポートシステム」として脆弱性骨折入院中の患者さんの検査、二次骨折リスクの評価を行い骨粗鬆症治療を開始すると共に、各部の連携により患者さん・ご家族の骨粗鬆症への理解を深め、転倒予防、栄養指導などを行います。さらに検査結果や治療薬などを記録した「再骨折予防手帳」をお渡しすることでかかりつけ医や他施設との連携を強め、骨粗鬆症治療の途切れない継続による二次骨折予防をさらに進めていきたいと考えております。



乳房撮影装置と 全身用X線CTを更新しました



放射線部

令和4年2月に乳房撮影装置とCT装置をそれぞれ、HOLOGIC社製「3 Dimensions」と、GEヘルスケアジャパン社製「RevolutionCT」に更新しました。

新しい乳房撮影装置は、

☆従来の2D撮影に加えて、トモシンセシスによる3D撮影が可能です。3D画像を追加することで、2Dでは乳腺の重なりで隠れた病変を検出できます。あるいは、正常乳腺の重なりが、病変に見えていたものを正常と判別することが可能になり、診断精度が向上します。HOLOGIC社の「3 Dimensions」は2Dと3Dの画像ピクセルサイズが同一の70 μ mであり、微小な石灰化など小さな構造物の変化を描出するのに適しています。また、3D撮影が3.7秒で撮影でき、各種の痛み軽減機構と併せて患者さんの負担を軽減します。

HOLOGIC社「3 Dimensions」▶



新しいCT装置は、

☆体軸方向に256列の検出器を持ち、1回転で16cmの範囲を高速に撮影可能です。時間分解能が高いため、高心拍の患者様でも冠動脈撮影が可能です。

また、最新のX線検出器と再構成アルゴリズムにより、被ばく線量が抑えられます。さらに、2種類の管電圧X線を利用できるので、高度な物質弁別機能も有しています。



▲GE社「RevolutionCT」

地域医療機関の先生方へ

地域医療連携部を通じて、以下の検査の予約を受け付けています。

ご利用のほど、よろしくお願いいたします。また、放射線治療の相談も受け付けています。

- ① CT 検査（単純・造影）
- ② RI(核医学)検査
- ③ MRI 検査
- ④ 骨密度測定 (DEXA)



県立加古川医療センター 外来診療表

令和4年6月1日(水)～

		月	火	水	木	金
総合内科	初診	石田	大北	藤田	担当医	中村
消化器内科	1診	埴本(さかもと)	【尹(ゆん)】(再診のみ)	田村	【尹(ゆん)】(再診のみ)	埴本(さかもと)
	2診	廣畑	岡田	廣畑(午前)	廣畑	吉治(午前)籠重(午後)
	3診				担当医	岡田
循環器内科	1診	福田	担当医(～14時)	岩田	片嶋	岩田
	2診	【禁煙】			【ペースメーカー】	笠松
脳神経内科		木村	木村	木村		末廣
糖尿病・内分泌内科	1診	飯田	藤田	飯田	石田	櫻谷
	2診		【後藤】	齋藤(午前)藤井(午後)		稲山(午前)津本(午後)
緩和ケア内科	入棟面談	担当医		担当医		担当医
	サポーターケア外来 (緩和ケア外来)	田中		田中		田中
生活習慣病		【尹(ゆん)】 肝炎	【戎谷(えびすたに)】 糖尿病・肥満	【合田】 糖尿病・肥満	【石井】 糖尿病・肥満	
		【福田】 禁煙	装具外来			
リウマチ科	1診	田中	田中	田中	田中	担当医1
	2診	村田	塩澤	塩澤	村田	担当医2
	3診	西田	吉原	吉原	吉原	担当医3
	4診	中川	【上藤】	村田		中川
	5診	天野	西田			天野
腎臓内科	1診	午後	加藤		加藤(1,3,5週)	
外科・消化器外科	1診	高瀬	川嶋	小林	担当医	高瀬
	2診	多田羅(たたら)	谷川	門馬(もんま)		宮永
心臓血管外科			担当医			担当医(午後)
脳神経外科	1診	担当医	荒井	森下	担当医	荒井
	2診		梶本	荒井		梶本
乳腺外科	1診	石川	石川		石川	担当医
	2診	小林	加藤		小林	
整形外科	初診 1診	青木	上藤	高山	西原	中川
	初診 2診	高原		北山	神村	
	再診 1診	【上藤】	中川	原田	【高山】	
	骨粗鬆症	午後	【上藤】			
形成外科	1診	櫻井	交代制	櫻井	櫻井	櫻井
	2診	谷口		谷口	谷口	谷口
	3診	【伊藤】		【伊藤】	【伊藤】	【伊藤】
皮膚科	初診/予診	【永濱】	【熊谷】	【高井】	【山田】	【永濱】
	1診	山田	足立	足立	増田	足立
	2診	熊谷	永濱	増田	熊谷	山田
眼科	1診	薄木	薄木	石川	薄木	薄木
	2診	徳川	徳川	徳川	石川	石川
	3診	秋田		秋田	秋田	
泌尿器科	1診	丸山	佐藤	田中	丸山	田中
	2診		大場			大場
放射線科	(IVR)	担当医		担当医		担当医
	(治療)	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

予約受付時間 平日 9:00～18:30 土曜日 9:00～11:30(祝日除く)

※各科診療予定は変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※【 】は予約できませんが、特別に受診を希望される場合等は、ご連絡下さい。

お願い 患者さんの待ち時間短縮のため、FAXまたはインターネットで初診予約をお取り下さい。
インターネットで初診予約を行う場合は、登録医の登録をお願いします。